|  |
| --- |
| 会議の結果 |
| 件　　　名 | 令和４年度田辺市社会教育委員会議　第４回定例会 |
| 日　　　時 | 令和４年12月16日（金曜日）　　14時～15時30分 |
| 場　　　所 | 田辺市芳養公民館　大集会室 |
|  | ○社会教育委員出席者10名：　尾崎副議長、稲垣委員、加藤委員、九鬼委員、近藤委員、坂本委員佐久間委員、中根委員、西川委員、柳川委員欠席者３名：　松場議長、小山委員、砂野委員○事務局７名：　佐武教育長、前川教育次長、狼谷生涯学習課長、那須生涯学習推進係長尾﨑公民館係長、遠山公民館係主査、小出生涯学習推進係主査、森口生涯学習推進係主事 |

１．開会　教育長挨拶

２．副議長挨拶

３．説明事項・報告事項

（１）第97回新春初泳ぎ・第39回新春初漕ぎについて

（２）令和４年度第１回田辺市民駅伝交流大会～弁慶ＲＵＮ～について

（３）文化振興課の行事予定について

（４）南方熊楠顕彰館の行事予定について

（５）第65回関西実業団対抗駅伝競走大会結果について

（６）令和４年度田辺市生涯学習フェスティバル来場者一覧表について

以上の項目について、事務局より一括して説明及び報告を行った。

質疑応答はなかった。

４．協議

（１）生涯学習推進計画について、事務局より報告を行った。

【質疑応答・主な意見】

Ａ委員：20ページの課題（２）「現代社会の課題に対応する学習機会の充実」というところの５行目に「職業生活・日常生活においても」とありますが、職業生活という言葉は日常的にあまり聞かないように思います。職業生活という言葉は、あまり多くの人に通じる言葉ではないという理解をしていますので、特殊な職業であったり、専門性のある職業であったりという方の生活を敢えてここで出して、その後に日常生活というところに、とても違和感があるのですが、敢えて職業生活という言葉は必要なのでしょうか。

事務局：詳細の確認はとれていませんが、いわゆるワークライフバランスという言葉を意識したものだったかと思います。前期計画から特段の変更をしていないところですが、皆さんもご意見をいただけるようであれば、より良い形に直す機会だと思いますので、お願いいたします。

Ｂ委員：私も職業生活という言葉があまり耳慣れないので、調べてみると、最近使われているらしくて、特色ある職業に就くことによって得られる日常生活という意味があるようです。強いてここで使わなくても、「人間性豊かな社会生活」というところにすべて含まれると思うので、「社会生活を営む上で自らの課題として受け止め、理解することが大切であり、より有意義な生活を送るためには、学校教育で得た知識や技術にとどまらず」としても良いような気がします。

Ａ委員：職業を持っていない人、そして、職業を持っている人も日常生活があるわけで、後期で見直すのであれば、その点も必要かと思います。

Ｃ委員：日本の生涯学習概念は、世界と違うところがあり、世界では成人教育という言い方をしています。昔は、日本も成人教育という言葉を使っていました。日常生活と言うとオンとオフの両方が含まれますが、オフのところが強すぎるイメージがあります。日本の生涯学習と考えたときに、学校教育も社会教育もその他の学習活動も、全部包含する概念であるとするならば、仕事をしているときも学び続ける、企業の中で学ぶということも、日本はどうしても厚労関係になってしまいますが、世界を見ると人間の学びというのは、仕事をしていようが、生活していようが、地域で生きていようが、学び続けるという意味においては、一緒のところでやるのですが、日本は断絶しているところがあるので、それを敢えて一緒に並べて、仕事しているときでも、計画の中に仕事しているときにも当てはまることがあるか、というのは論点として別にあるかと思いますが、そういったときも例えば、「自然災害のリスクや地域福祉のことは仕事にもつながるから考えておいてね」ということを強調するのであれば入れといたほうがいいかと思いますし、入れないなら入れないで、そこは別のものと片づけてしまうということが、なくなることでそれが強調されるので、それもいいのかなと思います。自分の立場からすると入れておくほうが、全部の概念が包含、まとまっているので良いかと思います。確かに職業生活という言葉が耳慣れないというのはありますが、国の使い方としては、職業生活と家庭生活という言い方はしています。

Ａ委員：職業生活と家庭生活であればわかりますが、市の計画では「職業生活・日常生活」となっていて、職業に就いている人も日常生活はあるので、違和感があります。

副議長：先日、ウェルビーイングの講座で、楽しそうに仕事をしていると、仕事なのになぜ楽しそうにやっているのか、一番長い時間やっている仕事が楽しいといけないのかという話がありました。仕事だからこそ難しい顔でしなければならないわけではない、と考えると、分けるのも逆にナンセンスになるのかもしれないと思いました。

Ｃ委員：理想としては、全部ひっくるめられたらいいと思います。寝ているときも起きているときも何をしているときも、人間は学び、成長し、発達するというところであれば、一つの概念にしてしまえばいいと思います。

Ａ委員：事前に配られた資料を一所懸命に読んでいくと、この言葉ってあまり聞かないというのがあって、前期計画のときはそこまで読んでいなかったからそのまま通してしまったのだと思います。どうしても削れというものではないですが、疑問を感じました。そう言われれば、同じように思う方も何人かいるのではないでしょうか。

事務局：この言葉では、同じ概念を思い描きにくいと思うので、わかりやすくするのがいいのだろうと思いますが、一方で、Ｃ委員がおっしゃったように、この言葉を取ってしまうと、仕事をしているときにも学びがあるという部分が薄まってしまうとも思いますので、日常生活を家庭生活に修正することでいかがでしょうか。

Ｃ委員：敢えて切り分けるという考え方ですね。職業生活に対する言葉としては家庭生活が使われていることが多いかと思いますので、問題ないかと思います。

Ａ委員：ただ、その言葉の前に「人々が人間性豊かな社会生活を営む上で、自らの課題として受け止め」とあり、それはあらゆる人に通じることだと思いますので、「理解することが大切です。より有意義な生活を送るために」とつながっていっても、と思いました。ですので、敢えて日常生活であろうと、家庭生活であろうと、その上に書いていることが全部網羅しているので、構わないといえば構わないですが。

Ｄ委員：職業生活という言葉の意味が今、自分の中で納得できました。働いていようと、家庭でいようと、すべてが日常なので、職業生活と日常生活という表現はなんとなくおかしかったのかなという気がします。

事務局：例えば、育児休業を取って、職業と家庭を両立させるということも社会的課題かと思いますが、そういったいろんなことを地域社会の課題として、行政の計画は網羅しようとする傾向があるので、そういったものが５年前にこの計画の一文に反映されたものだと思っています。先ほども申し上げましたが、違和感があって、削除しても計画としての意図が成立するということであれば、削除するということも一つの選択だと思います。事務局としても悩ましいところで、皆さんのご意見を頂戴した上で、最終修正していくべきかと考えていますが、現段階では、職業生活・日常生活という表現を職業生活・家庭生活と置き換えたほうがより伝わるのかと思っています。

Ｂ委員：日常生活を家庭生活に修正するか、職業生活・日常生活を削除するか、事務局に一任でいかがでしょうか。

副議長：委員から提案もありましたように、この件については、事務局に一任することとします。

Ｂ委員：36ページの⑦「自然災害のリスクに対応する学習の推進」の現状と課題に関して、今、本当に自然災害、外国のすごい山火事やオートストラリアの干ばつ化など、地球環境の問題が非常に大きくクローズアップされている中で、課題のところにはすごくいいことを書いていて、自分の命は自分で守るとか、意識を高めるとか、ただ、取組のところで、最初の二行はいいんですが、「他者との意見交換ができたりする形式で行うなど」というのであれば、例えば「単に学ぶだけに終わらずに、他者との意見交流ができるワークショップ形式を取り入れるなど、自ら考え、行動につなげていけるよう、内容の充実に努めます」としたほうがいいかと思います。また、40ページの⑪「環境問題に関する学習の推進」のところで、「そのほとんどが自然の恵みを享受した後、再び自然に排出することで」とわかりづらい部分があるので、最初の４行を「今日の環境問題は、これまでの私たちの暮らしや経済活動により、地球温暖化をはじめとした自然に過大に負担をかけ、そのバランスが崩れることにより生じています。」としたほうがわかりやすいと思います。次のページの上部に、カーボンニュートラルの問題などいろいろと書いてくれていますが、それ位強調しているにもかかわらず、主な取組の内容が非常に弱いと感じます。また、主な取組の一つ目と二つ目は順番が反対ではないかと思います。まず、現状を知る学習の推進があって、次に意識を高めるほうがいいと思います。まず、環境の現状を知る学習の推進ということで、「環境について自分事としてとらえ、環境保全について、主体的に行動していくためには、まず現状や実態を正しく知ることが重要です。そのための学習の推進に努めます。」としておいて、次に、環境に対する意識を高める学習の推進のところで、環境に対する意識を高めるためには、水やごみの問題というようにもう少し具体案を出さないといけないと思うので、「毎日の生活に欠かせない水やごみ問題、また地球温暖化がもたらす被害等、身近な問題を取り上げ、一人ひとりが環境意識を高められるよう環境学習の推進に努めます。」という案はいかがでしょうか。環境については、2011年の東北大震災の後の紀伊水害等、今までにない自然災害が起こっています。また、水やごみの問題、生物多様性の問題、マイクロプラスチックの問題などが多々あります。これからの子供たち、５年間というのは、他人事ではなく、自分事としてとらえなければいけない中で、上に書いている現状と課題に対して、取組が非常に弱いと思うので、もう一度環境課と調整して、身近な場所からではなく、身近な問題をもっと具体化したほうが良いと思います。

副議長：計画には、あまり細かなことを書くのではなく、大きな方針を示して、次の段階で具体的に落とし込んでいくということではなかったですか。

Ｂ委員：最近のごみ処理費用は調べていませんが、ずいぶん前でも田辺市だけで十数億円使っていて、多くの人はそのことを知らないと思います。今後５年間の計画なので、「身近な場所」というよりも、水問題やごみ問題とった身近なところの具体案を出したほうが良いと個人的には思います。

副議長：36ページの件については、ワークショップという言葉を使ったほうがわかりやすいかと思います。他の部分についても一つの意見としてご検討いただければと思います。

Ａ委員：回覧資料に注釈番号があって用語説明がついていたと思います。43ページに「学び直しによる人材の育成」というところで、「リカレント教育」とあります。周りで聞くと半分以上の人がわからないとのことでした。こういうことをやっていて自分は知っていても、多くの人に聞いてみると半分以上がその言葉を知らなかったので、言葉一つ一つ申し訳ないですが、この言葉についても注釈が必要ではないでしょうか。

Ｃ委員：リカレントなので、新しいことを学ぼうという意味ですが、国の使い方としては、社会人の学び直しの意味で使われています。本当の意味はリスキリングのほうが正しいという説もありますが、文科省でもリフレッシュ教育という言葉が使われていたり、リスキリング教育やリカレント教育とも言われていたり、いろんな言い方があるので、そこの注釈は私もあったほうがいいと思います。社会人の学び直しという程度の簡単な説明でいいと思います。学校を卒業したら勉強しなくてもよいという話ではなく、特にキャリアを変えるときに新しい技術を学ばなければならないとかそういったものをもう少し体系的に用意していきましょう、大学もそういったところで、社会人にもう一度入ってきてもらって、例えばPythonとかのプログラミングを学び直してもらって社会で活躍してもらう、そんな使われ方をしています。

Ｄ委員：注釈を入れるのもいいですが、その都度後ろまでページをめくってということになるので、短い説明であれば、語句の後ろに括弧書きで説明を入れてはどうかと思います。

Ａ委員：資料が送られてくる、それを読むという習慣がある人はわからない語句があると注釈ページを見ると思いますが、そうでない方はペラペラと見て、わからない言葉があっても注釈まで確認せずに終わってしまうので、括弧書きで説明を入れるのも手段だと思います。

Ｃ委員：注釈の説明は後ろにまとめて記載する形式と各ページに記載する形式があると思いますが、この計画はどうでしたか。

事務局：前期計画と同様に後ろに用語説明をまとめる予定としています。一言で済むものばかりではないので、各ページに注釈の説明を入れることは難しいと考えています。

Ｄ委員：単純な説明は括弧書き、歴史など深く書かなければならないものについては注釈をつけて、後ろにまとめて書くといいかと思います。

Ｃ委員：計画では、そんな歴史の話はしなくてもいいと思いますが、先ほどの職業生活という言葉と同じで、このリカレント教育も国が使うところがあって引っ張られるところがあると思います。戦略的に引っ張っていくというのも一つの手法で、リカレント事業を実施する場合に説明がしやすいと思います。

Ｅ委員：人物の注釈については、説明もしっかりとあって勉強になりますが、少しのものを後ろのページまで見に行くとなると疲れてきます。リカレントはこれから浸透していかなければならないことだと思うので、括弧書きで説明を入れておいてもらえると頭に入りやすいと思います。

（２）人材育成事業企画部会について、事務局より報告を行った。

【質疑応答・主な意見】

Ｆ委員：中学校講座ということで、中芳養中学校でこうした機会を設けていただきました。子供たちも本当にいい経験ができたというか、２年生と３年生別々でお話をいただきたい、また、近い距離でお話いただきたいということで、会場も体育館でまとめてではなく、敢えて小さい会場で２回に分けて実施しました。山本さんには無理を言って２回同じ話をしていただきましたが、非常によかったと思います。２年生は、尾崎さんやいろいろな方に協力いただいて、校内の梅から梅ジャムを作って販売した、その経験を踏まえた上での話だったので、違った視点というか、子供たちなりの胸に届くものがあったと思いますし、３年生についても、進路を直に考えている時期なので、そういう点からも違った捉え方ができたということで、２年生と３年生それぞれで聞けたというのは本当によかったと思いました。いろんな子供たち、感受性豊かな子供たちがいるので、山本さんの経験というのが、いろいろな層に届く話だったなと思います。特に印象的だったのが、「普段はこういう場は寝てしまうけど、今日は初めて目を開けて最後まで聞けました。今まで聞いた講演で一番面白かったです。」と、手を挙げて答えた生徒がいて、その思いを聞くことができて、一人ひとりの子供たちに届いたのだと思いました。こういう機会があるというのは大きいと思いますので、ぜひまたこういう機会を増やしていければと思います。

副議長：大勢に聞いてほしい。でも、まとめて聞かせると届きにくいというのは悩ましいですが、敢えて分けて聞かせるというのは、貴重な意見だと思います。

Ｇ委員：学校教育の話で恐縮ですが、先日、高校で労働問題に関する講演依頼があり、行ってきました。その高校には、進学コースと就職コースがあると事前に聞いていましたが、今回の資料を見て、卒業後の進路は、市内と市外と県外とこういう構成になっていて、また、就職と進学はこういう割合だったというのを知りました。今、社会教育の場で、前回の会議で出た質問に答えてこういう資料が出てきて、個人情報の範囲に気を付けなければならない部分でもありますけれども、労働問題は、解雇の問題であるとか、労働条件の問題を事前に知ってから就職に臨むとか、その場面場面で対象になるターゲットになる人ごとに必要な話が変わりますので、こういった情報が事前に提供されていれば、もっと考える材料があって、どのように対応するか検討することができたと思うので、学校教育と社会教育と違うと思いますが、事前に情報提供が欲しかったなと思って発言させていただきました。

副議長：進学した後どうなったのか、どれだけ帰ってきているのかを知りたいところですが、把握しようがないので、信じながらやるしかないということですね。

Ｄ委員：子供たちの経験値が高く、学習を積み上げてきていると感じました。先生のご配慮もあったと思いますが、子供たち自身も自分たちが積み上げたものをバトンタッチしながら聞いているような感覚で、能動的に過ごされていてすごいと思いました。その場に担当として参加しましたが、下手なことを言わなくても、生徒が主体的に議論を進めていたので、これも積み上げの上にあるのだと思いました。

副議長：風土ができている、そんな感じがして素晴らしいと思いました。

Ｂ委員：両方に参加させてもらって、すごくよかったと思うのと、Ｆ委員から話のあった「今日は眠くなかった、話が面白かった」というのが印象的でしたし、皆さん熱心に聞いていました。話がすごくよかったというのもありますが、将来のことを考えるのに役立ったというのも文章にあって、ただ、神島高校のアンケートで、実際の熱量に対してアンケートが少ないと思いましたが、ＱＲコード経由のアンケートだけだったという事務局の説明を聞いて納得しました。ワークショップをする中で驚いたのは、私の入ったグループのほとんどは田舎の方がいい、都会よりも田舎の方が住みやすいという人が多くて、将来を期待したいと思いました。私は、県の社会教育大会に参加させてもらって、その中で「都会へ行ったほうがいい生活ができる、収入も地元よりもいいというような、大人の価値観を子供に押し付けている」という話がありました。秋田県は学力が高いが、県外に出ていく人が多いという話もあって、今までの考え方では、地元にいるよりも県外で成功して、錦を飾ってということでしたが、果たして学力が高くて、出ていく率が高い、田舎へ帰ってきたら、みじめで帰ってきた、というのではなくて、堂々とこの地域がいいと帰ってきてくれる子供が、中・高校講座をやることで、一人でも二人でも増えてくれたらと思います。

Ｅ委員：神島高校の推進協議会にも委員として入っていて、先日、担当の先生が神島塾や市民カレッジのことをスライドで説明してくれました。神島塾は、何日かに分けて、最後は一泊して作り上げるという企画だったようですが、最後は宿泊が叶わなかったけど、一日中みんなで作業して、とても密接したというか、みんながそれぞれ成長した感じだったと聞きました。回を重ねて、子供たちが強くなった、取り組んでいくうちに学びが多かったというか、それがあったから神島塾が変わっていった、ぐっと近くなったというか、強くなったというか、そういったお話をされていました。確かに、神島高校での高校講座でも、先生の熱量も高まっていたと思いますし、生徒の様子を見ても今までと違うなと感じました。

副議長：神島高校のグループワークで、最後の発表者を決めるときに、これまでやっていない人がやるという話で決めていて、うまいやり方だと思いましたし、とても大事なことだと思いました。やるとなった生徒もすんなり受け入れていて、そういうことが成長につながっていくんだと思いました。

副議長：勉強会について、これは部会関係なく参加してもらうということでよいですか。

事務局：次年度に向けて、社会教育委員全員を対象に実施するものになります。

５．その他

６．閉会　副議長挨拶